

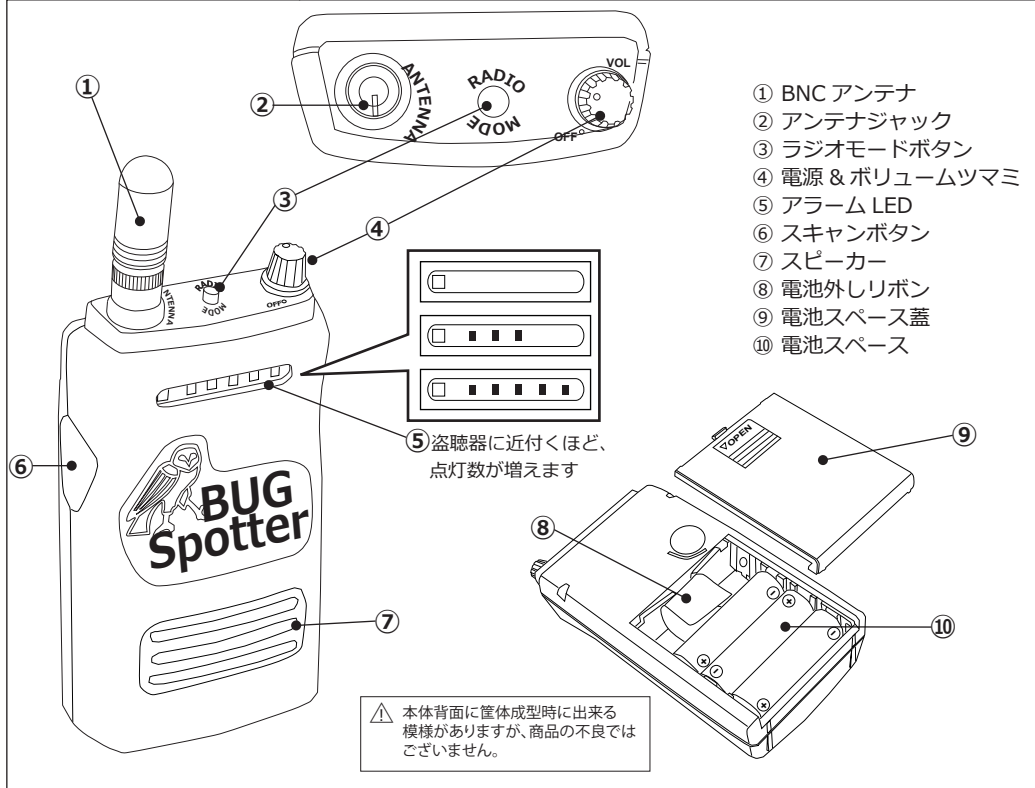
# BUG Spotter

盗聴発見機  
バグスポッター

バグスポッターは自動で盗聴電波を探ることができる盗聴発見器です。従来型の盗聴発見器とは動作の仕組みが大きく異なります。周囲に存在する各種電波やノイズの発信源に対し、本体から識別音を発します。その識別音を含む盗聴波を割り出し、盗聴器の有無を判断します。とても扱い易く、効率的な発見作業が可能になりました。

## ■バグスポッター 各部名称

## ▶▶使用方法については裏面をご覧ください

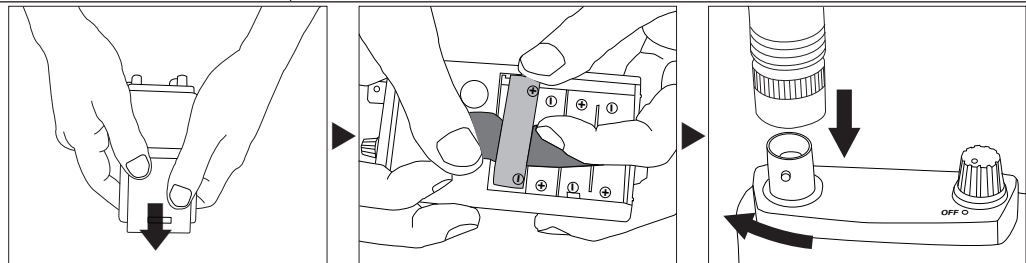


- ① BNC アンテナ
- ② アンテナジャック
- ③ ラジオモードボタン
- ④ 電源 & ボリュームつまみ
- ⑤ アラーム LED
- ⑥ スキャンボタン
- ⑦ スピーカー
- ⑧ 電池外しリボン
- ⑨ 電池スペース蓋
- ⑩ 電池スペース

⑤盗聴器に近付くほど、点灯数が増えます

⚠ 本体背面に筐体成型時に出る模様がありますが、商品の不良ではございません。

## ■セッティング



1 まず最初に電池をいれます。背面の電池スペース蓋(⑨)を開けてください。写真のように持ち矢印方向へ両手親指で押すように開けます。

2 電池外しリボン(⑧)がついていますので、その上から+と-を間違えないように、単三電池を入れてください。入れ終わったら、蓋を開けてください。

3 BNC アンテナ(①)を接続します。アンテナジャック(②)の凸部と、BNC アンテナ側の凹部を合わせて差し込み、時計まわりに回してロックします(各部名称①、②をご参照ください)。

## ■バグスポッターの主な特徴

従来の盗聴発見器では、盗聴器とそれ以外の電波を判別する為に、その都度音声聞いて確認する必要があります。バグスポッターは自動的に本体から発する識別音により、盗聴器以外の電波を区別することが出来ますので、探知作業をよりスムーズに行えます。

## ■広いスキャン周波数

スキャン周波数帯域は 50~2,000MHz をカバーします。一般的な盗聴器に扱われる VHF 及び UHF 発信機の帯域にチューニングを施し、盗聴電波を捉えやすくしています。  
※FM 盗聴器には対応しておりません。  
※1,200MHz 以上は感度が低下します。

## ■簡単操作

電源を入れて、スキャンボタンを押すと「パッパッパッ」とスキャン音が鳴り、周囲に存在している電波を探し出します。電波が存在した場合に、本体スピーカーから「ピーッ ピーッ」と識別音を発します。その識別音を含む電波を受信すると「ピピピピピッ」という盗聴器警告音でお知らせします。その際にラジオモードボタンを押し、盗聴器が発信する音声を受信し聞くことができます(裏面をご参照ください)。

## ■ラジオモード

ラジオモードでは盗聴電波の音声聞くことができます。盗聴器警告音が鳴った時に、ラジオモードボタンをオンにすると、バグスポッターが受信している電波の内容を音声で確認することが出来ます。また、ラジオモードの状態では盗聴器に接近すると、スピーカーと盗聴器のマイク間でハウリングが発生します。このハウリングを利用して盗聴器との距離を 20cm 以下まで追い詰めることができます。

## ■アラーム LED

7 個の LED を搭載し、点灯表示により本体の状態や受信電波の強さを目視で確認することが出来ます。  
※電源を入れた際にアラーム LED の左はし 1 個が点滅しているときは電池交換が必要です。  
※受信している状態で、LED の左端が点灯 / 右端が点滅している場合は、電波の受信が途切れたことを意味します。その際は再度スキャンボタンを押して探索をやり直してください。

## ■発見作業時の注意

在室しているときに使用するであろう電気製品の電源をオンにしてください。PC も電源をオンにしてください。OS を起動させる必要はありません。夜間なら、室内の照明や電気スタンドなどもオンにしてください。これらのことを行うのは、電気製品に盗聴器を仕込んでいる擬装型の盗聴器、PC の USB 系を電源にしている盗聴器に電波を出させる為です。

## ■電話用盗聴器に関して

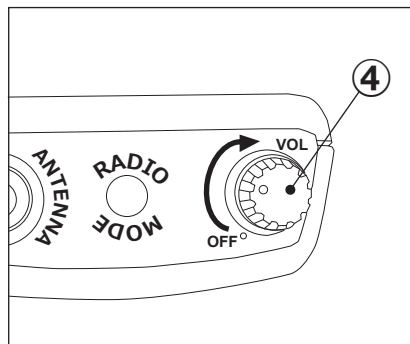
バグスポッターは、電話用盗聴器にも対応しています。発見作業時は、電話機を通話状態にして行います。117 の時報をダイヤルするなどして通話状態にしてください。受話器の送話口を盗聴器のマイクに見立て、発見作業を行います。ボリュームを最大にした本体を送話口に近づけてください。これは、送話口から盗聴器のマイクに識別音を届き易くする為です。  
※アナログコードレスホンを使っている場合は、一時的に普通の電話に交換し、発見作業を行います。これは、アナログコードレスホンの子機の送信周波数がバグスポッターのスキャン周波数帯域内に入り、発見作業の妨げになるのを防ぐ為です。  
※多くの電話用盗聴器は、電話用周辺機器と同じ形をしています。発見作業中に盗聴器の反応があった場合、電話機やモジュラーコネクタなどを変えて、再度発見作業を行います(盗聴器が電話機や周辺機器に組み込まれている可能性がある為です)。変えて反応が無くなった場合、取り外した機器やコネクタに盗聴器が組込まれている可能性があります。

## ——バグスポッター製品仕様——

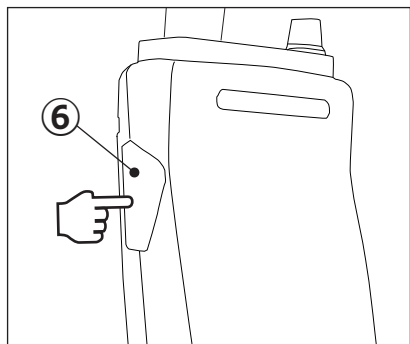
外形	本体：117(126) × 65 × 34mm ・ アンテナ：φ15 × 45mm
重量	本体：200g (アルカリ電池 91g 含む) ・ アンテナ：17g
電源・消費電流	単 3 電池 (ニッケル水素電池使用可) × 4 ・ 80mA (無信号時)
受信周波数	50~2,000MHz(2GHz) ※1,200MHz 以上は感度が低下
スキャン時間	約 20 秒 / 回
アラーム警鳴	3 種類 (スキャン音、識別音、盗聴器警告音)
音声モニター	あり (ラジオモードボタン)
アンテナ	BNC 型
製品構成	本体・アンテナ・テスト用電池 (単三電池×4)

# バグスポッター 簡易取扱説明書

セッティングの後、下記手順に従い発見作業を行ってください。  
操作を開始する前に、オモテ面の「バグスポッター各部名称」をご確認ください。



**1** 電源をいれます。  
本体上部の電源&ボリュームつまみ(4)を時計回りの方向へ右一杯まで回します。これは、盗聴器に識別音(後述)を拾わせるために重要なポイントです。



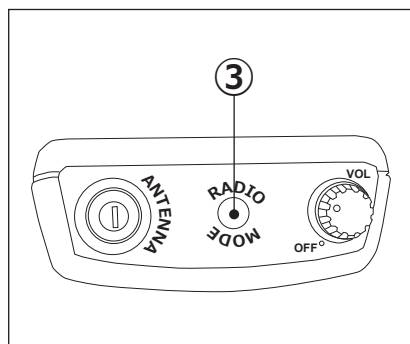
**2** スキャンモードを使います。  
次に本体側面のスキャンボタン(6)を押します。バグスポッターがスキャンを開始します。スピーカー(7)からスキャン音(パツパツパツ..)が聞こえます。  
※この時点では、室内に電波が存在するかを確認しています。



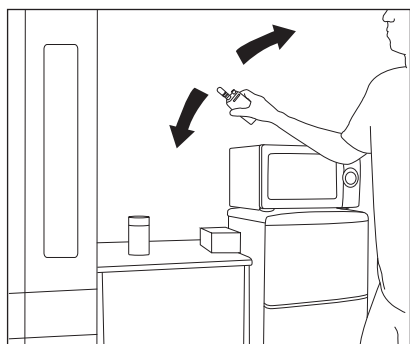
**3** スキャン中に下記電波を受信すると識別音(ビーピー..)を発します。電波の発信源が盗聴器か否かを識別するためです。  
※この時点では、何らかの電波が存在することを知らせています。  
以下例  
a. ラジオやTV等の公共放送電波  
b. 盗聴機器が発する電波  
c. JR等公共輸送車両の通信電波など



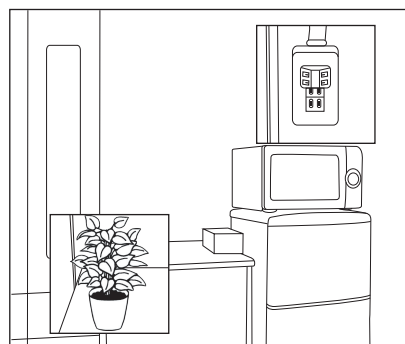
**4** a~cの中で、発見作業中の室内で、バグスポッターが発する識別音を拾えるのはbの盗聴器のみです。盗聴器はこの識別音を拾うと、それを含んだ電波を送信します。バグスポッターはその「識別音を含む電波」を受信すると警告音を出して盗聴電波の存在を知らせます(ピピピピッ)。バグスポッターが検知した電波が識別音の情報を含まない場合、警告音は出ません。通常、数十秒~1分程度で識別音は停止します。  
※警告音が出ない場合は、その周辺に盗聴器はありません。



**5** ラジオモードを使います。  
【4】で警告音が鳴った場合、操作パネルのラジオモードボタン(3)を押します。  
すると、受信している電波の内容を音声で確認できます。室内で好きな曲をかけるか、声を発してみてください。かけた曲や、御自身の声がバグスポッターのスピーカーから聞こえてくる様であれば、室内に会話用盗聴器が存在する可能性があります。



**6** ハウリングを利用し、発信源の位置を探します。  
【5】の状態では壁面を撫でるようなイメージで、バグスポッターを動かしてください。作業しながらスピーカーから「ポワ〜ン」という音を発する場所を探します。これはハウリングを利用した発見方法です。カラオケでマイクとスピーカーが近づくと音がでる現象です。盗聴器のマイクとバグスポッターのスピーカーを利用して探索します。



**7** 発見作業中に「ポワ〜ン」という音を発する場所があった場合、ほぼ盗聴器があると断定できます。その周辺を目視で探索してください。どこでも鳴ってしまう場合は、電源&ボリュームつまみ(4)で音量を下げ、位置を絞りこんでいきます。  
※盗聴器に近づくほど、LED表示の点灯数も比例して多くなります。